

# お口爽やかですか

テーマ **米国最高裁判所が科学的証言の真偽を判断する基準**

**健康専門機関が多数、むし歯予防にフッ化物利用を推奨**

**フッ化物洗口の  
貢献を認める学  
校が全国で増加**

**正しい科学とイン  
チキの科学との判  
別には常識を働かせる**

2004年の日本でのフッ化物洗口実施調査では、10年前の3倍にあたる3921の幼稚園・小中学校で40万人が実施しています。特に佐賀県、静岡県、愛知県の小学校では年間数万人単位で増え、京都市は、約190の全小学校で今年から実施が決まっています。31年前に、新潟県の弥彦村で日本において開始されたフッ化物洗口が約4千に増えたことは、むし歯予防で子供たちの健康に貢献することを多くの学校と父母が認めたからです。

図表のように、多数の健康に関する専門機関が「フッ化物は人々に利益を与えるもの」と認め、推奨しています。

食物から約1ミリの糖を日々摂取しているフッ化物が安全であることは、常識で考えても判ることです。むし歯予防のフッ化物洗口では、食物からの5分の1以下のフッ素摂取量です。

しかし少数ですが、実はわざと不適切で間違ったインチキの科学に由来するデータや、嘘の危険性を流し、人々を不安に落とし入れ、フッ化物利用の普及を妨害してきました。

それにもかかわらず、フッ化物入り歯磨き剤の市場シェアは90%に達しています。それは、人々が常識を働かせ、正しい科学とインチキの科学との判別をした結果です。

1993年、米国連邦最

高裁判所は、法廷内でのインチキの科学の使用を制限する、画期的な決定を発表しました。下記のように最高裁判所は、科学的証言が正しいかどうかを判断する確認事項を、4点挙げています。特に④は参考にしたものです。

4つの科学的証言の真偽を判断する基準（米国連邦最高裁判所1993年）

①専門家の理論あるいは技法を科学的な方法で確認できたか、確認できたか。

②同じ分野の専門家の論文や評論

**むし歯予防にフッ化物洗口法など  
フッ化物使用を推奨する主な保健専門団体**

<b>WHO</b> (世界保健機関)	<b>FDI</b> (国際歯科連盟)
<b>ORCA</b> (欧州う蝕研究協議会)	<b>IADR</b> (国際歯学研究学会)

米 国: 公衆衛生局・国立衛生研究所・**防疫予防センター**・国立癌研究所・環境庁・**食品医薬品局**・医師会・歯科医師会・小児科学会・公衆衛生学会・栄養士会・歯科衛生士会・看護協会・**水道協会**他

英 国: 保健省・**王立医学協会**・医師会・歯科医師会

カナダ: 厚生省・医師会・歯科医師会

アイルランド: 歯科医師会

ニュージーランド: 歯科医師会

オーストラリア: 歯科医師会

日 本: 厚生労働省・日本歯科医師会・**日本歯科医学会**・口腔衛生学会・北海道歯科医師会

による多くの批評に耐えてこられたかの確認。

③その理論や実践結果が正しいものであるかの確認。

④その理論や技法を、ごく少数しか認めないものである。それは疑わしいものである。その理論や技法が正統な科学団体に広く認められているかの確認。